

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 10 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2010 ～ 2012

課題番号：22390430

研究課題名（和文） ファミリーセンタードケアに基づいた新生児終末期ケアのための教育プログラムの開発

研究課題名（英文） Development of a neonatal end-of-life care education program based on family-centered care

研究代表者

横尾 京子（YOKOO KYOKO）

広島大学・大学院医歯薬保健学研究院・教授

研究者番号：80230639

研究成果の概要（和文）：本研究目的は、ファミリーセンタードケアに基づいた新生児終末期ケアの教育プログラムを開発することであった。先行研究及び既存の関連教育プログラムを参考に 2 日間集中型プログラムを作成した。本プログラムを 30 名の新生児集中ケア認定看護師に実施した結果、実施直前よりも実施直後、1 週間後、1 か月後の知識や実践レベルが有意に改善されたことから、本プログラムが新生児終末期ケアに一定の成果があることを確認できた。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to develop the education program for a neonatal end-of-life care based on the concept of family-centered care. 2 days concentrated-program was developed, with previous studies and existing related education programs used as reference. 30 certified neonatal intensive care nurses attended this 2 days program. It was shown that levels of knowledge and practical skills were significantly improved immediately after, a week after, and a month after the completion of the program compared to the ones before the start of the program. Based on the result, it was proven that the program held a certain level of effectiveness for educating certified neonatal intensive care nurses to provide a neonatal end-of-life care.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	1,700,000	510,000	2,210,000
2011 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2012 年度	4,000,000	1,200,000	5,200,000
年度			
年度			
総計	7,000,000	2,100,000	9,100,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・生涯発達看護学

キーワード：終末期ケア，緩和ケア，新生児，ファミリーセンタードケア，教育プログラム
倫理的意思決定期，臨死期，死別

1. 研究開始当初の背景

新生児医療技術の高度化は、回復の見込みが立たず治療の中止を検討せざるを得ない状況をもたらすことになった。治療を中止す

るということは、両親、看護者・医療スタッフにとっては、倫理的葛藤や精神的打撃を受ける体験である。それでも看護者は、自分自身がつ葛藤や精神的打撃と向

き合いながら、終末期にある新生児と両親へのケアができなければならない。このような心身に極度の緊張を強いる状況でケアを実施できるようになるには、適切な教育プログラムやトレーニング、実践的な指針が必要である。しかし、わが国には新生児終末期ケアの実践を支えるための、系統のかつ家族中心 (family centered) の教育プログラムはなく、また、看護者の教育へのニーズは高い¹⁾。

2. 研究の目的

本研究の目的は、ファミリーセンタードケアに基づいた新生児終末期ケアのための教育プログラムを開発することであった。

3. 研究の方法

本研究は、広島大学大学院保健学研究科看護学研究倫理委員会の承認を得て実施した。

1) プログラムの作成

新生児および終末期ケア・教育プログラムをキーワードとし、2002~2012年について、医学中央雑誌、PubMed、CHNAHLを用いて検索した。その結果、海外1文献²⁾および3団体の教育プログラム (小児用)^{3~5)}を抽出することができた。

これらをもとに、新生児に関連する内容として38モジュールを選択、内容の類似性や関連性の観点から18に分類し、さらに6つに集約した：新生児終末期ケア総論、倫理的意思決定と家族のケア、臨死期の新生児のケア、死別を経験する家族のケア、コミュニケーション、医療者へのサポート。

プログラムの目標は、「新生児終末期ケアに関する系統的知識を持つことによって、その臨床的意義への理解を深めるとともに、これまでの苦手意識を軽減させてケアを行うことができる」とした。

6つの学習単位 (18の学習内容) を16時間・2日間集中型で編成し、講義・グループ討議・事例検討 (視聴事例含む) による方法を組み合わせ、講師として看護師、医師、臨床心理士、僧侶、死別体験者 (母親) 計9名が担当した。

2) プログラムの実施

対象者は、評価者レベルを揃えるため、新生児終末期ケアの経験を有する新生児集中ケア認定看護師とした。サンプルサイズは、有意水準 (0.05)、検定力 (0.8)、降下量中等度とし、検定力分析ソフト G*Power³⁾ を用いて算出、27名のところを評価段階での脱落者を想定して30名とした。

対象者のリクルートは、新生児集中ケア認定看護師ネットワーク・メーリングリストを用いて行った。

3) プログラムの評価

対象者は、2日間の教育プログラムに参加し、継続的に評価に参加できる者とした。評

価は、プログラム実施直前・直後・1週間後・1ヶ月後に無記名ID式構成型質問紙調査 (15分) を行い、グループインタビュー (2時間) を1ヶ月後に実施した (表1)

表1. 評価方法

時期	方法	
直前・直後	質問紙 (留置法)	会場で実施 回収箱
1週間後	質問紙 (郵送法)	回収1週間
1か月後	質問紙 (留置法)	会場で実施
	グループインタビュー	

質問紙調査は、①形成的テスト (15解答)・②理解についての認識 (10項目)・③実践の苦手意識 (15項目：倫理的意思決定期・臨死期・死別期各5項目) とし、②と③はリッカート5段階尺度を用い、Cronbach's α 係数を算出し内的一貫性妥当性を確認した。分析は、記述統計量の算出、反復測定分散分析によって行った。

グループインタビューにおいては、プログラム実施後1ヶ月間における終末期ケア上の変化についてインタビューし、内容は許可を得て録音した。分析は、Mayringの要約的内容分析の方法によって行い、変化内容をカテゴリー化した。分析結果は、情報提供者にメールで送付し、確認を依頼し、誤りがある場合は修正することとした。

4. 研究成果

全評価に参加できた対象者は30名であった。平均年齢は 39.3 ± 5.1 歳、平均NICU経験年数は 13.4 ± 4.4 年であった。

質問紙の内的一貫性妥当性は、形成的テストは0.61、理解についての認識は0.92、実践の苦手意識の倫理的意思決定期は0.84、同じく臨死期は0.88、死別期は0.81であり、確認することができた。

質問紙による評価結果は表2、表3に示した。形成的テストと理解についての認識は、直前よりも直後、1週間後、1か月後のほうが有意に上昇し、逆に、実践の苦手意識はすべて、有意に減少した。

表2. 形成的テストおよび理解についての認識における得点の変化

	形成的テスト ¹⁾	理解についての認識 ²⁾
直前	3.9 ± 2.1	2.7 ± 0.7
直後	11.2 ± 1.9	3.8 ± 0.8
1週間後	13.9 ± 1.4	3.9 ± 0.7
1ヶ月後	12.8 ± 1.9	4.0 ± 0.6

n=30

1) $F(2.16, 62.5) = 26.6, p < .001$

2) $F(2.05, 59.4) = 29.1, p < .001$

表 3. 実践の苦手意識（時期別）における得点の変化

	倫理的意識 決定期 ¹⁾	臨死期 ²⁾	死別期 ³⁾
直前	2.7±0.6	2.9±0.8	3.0±0.7
直後	2.3±0.6	2.3±0.6	2.3±0.7
1週間後	2.4±0.7	2.3±0.7	2.3±0.7
1ヶ月後	2.1±0.4	2.2±0.5	2.1±0.5

n=30

1) $F(3,87) = 12.9, p < .001$

2) $F(2,14,61.9) = 24.1, p < .001$

3) $F(3,87) = 36.2, p < .001$

グループインタビューによって、新生児終末期ケアの実践において、これまで実施していなかったことが実施されるようになったことが明らかになった(表4)。さらには、終末期ケアに限らず、日常の新生児ケアにおいても変化が認められた:「家族中心のケアに基づいた実践への取り組み」「コミュニケーションスキルの応用」「日常の看護実践における倫理的問題の抽出」「カンファレンス実施法の改善」。

表 4. 新生児終末期ケアの実践における変化

時期	カテゴリー
倫理的 意思決定期	家族の意思決定を支えるための話し合いの実施
臨死期	新生児の痛みの緩和とコンフォートケアの実施
	家族のためのケアの実施
死別期	遺族の思いの傾聴
	死別期のケア向上のための改善と提案

以上のように、質問紙調査及びグループインタビューの結果から、本プログラムに参加した対象者においては、プログラムの目標である「新生児終末期ケアに関する系統的知識を持つことによって、その臨床的意義への理解を深めるとともに、これまでの苦手意識を軽減させてケアを行うことができる」を達成できたことが明らかとなった。その理由として、教育方法が工夫されていたこと(6つの学習単位ごとにグループ討議を組み込み、講義は基本的に事例ベースとしたこと、コミュニケーションでは視聴事例を通して討議したこと)、参加動機が明確な対象者であったことが考えられた。

Rogersらのプログラムは、1か月に1回のペースで、関心のあるテーマに参加する方法で実施されており、評価において、実施直前よりも直後に得点が低下した学習単位(コミュニケーション)があった。知識を得ることによって難しさを抱いた可能性が考えられる。

新生児終末期ケアの教育プログラムは、国

外でも少ないのが現状である。そこで、本プログラムを国内で使用することにとどまらず、評価の枠を国外にも拡大し、国際的なプログラムに発展させていくことも今後の課題の一つと考える。

引用文献

- 1) 横尾京子 他. (2008): 看護者の認識に基づいた周産期ファミリーケア教育プログラムの作成, 日本新生児看護学会誌, 14 (2), 24-29.
- 2) Rogers S, et al. (2008): Educational interventions in end-of-life care: part I, *Advances in Neonatal Care*, 8, 56-65.
- 3) National Health Service: NHS West Midlands. (2010) *Pediatric Palliative Care*. [Web site]. Retrieved May 3, 2012, from <http://wmdsafelive.ocbmedia.com/index.php/>
- 4) National Hospice and Palliative Care Course. [E-learning material]. Retrieved May 3, 2012, from http://www.nhpco.org/fields/public/chippes/Peds_Overview.pdf
- 5) Together for short lives. (2012). *Train to Care*. [Web site]. Retrieved November 18, 2012, from http://www.togetherforshortlives.org.uk/professional/service_planning/learning/train_to_care/training.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

1. 横尾京子、ファミリーセンタードケアに基づいた看護実践に関するNICU看護士の認識、日本新生児看護学会誌、査読あり、19巻、2013年、16~22
2. 村上真理、新生児終末期ケア教育プログラム開発のための質問紙調査、日本新生児看護学会誌、査読あり、18巻、2012年、55~62

[学会発表] (計1件)

1. 横尾京子、早産児ケア：家族中心のケア(FCC)とスピリチュアリティ、日本DC研究会(ディベロップメンタルケアセミナー)、2011年12月10日、聖路加看護大学

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

横尾 京子 (YOKOO KYOKO)
広島大学・大学院医歯薬保健学研究院・
教授
研究者番号：80230639

(2)研究分担者

藤本 紗央里 (FUJIMOTO SAORI)
広島大学・大学院医歯薬保健学研究院・
講師
研究者番号：90372698

小澤 未緒 (OZAWA MIO)
広島大学・大学院医歯薬保健学研究院・
講師
研究者番号：80611318
(H24~)

村上 真理 (MURAKAMI MARI)
広島大学・大学院医歯薬保健学研究院・
助教
研究者番号：10363053

(3)連携研究者

なし

()

研究者番号：